

和室から始める
ゆる勉のすすめ

Osaka Study Network

目次

メンバー紹介

第一章 ゆる勉はこうして始まった

Osaka Study Networkとは
勉強会をやりたい！
和室しかない！？
テーマが決まらない！

第二章 なぜゆる勉なのか？

勉強はつまらない？
混沌とした時代を生きる
今だからこそ、ゆる勉
さあ、ゆる勉をはじめよう

第三章 ゆる勉のルール・ノウハウ

ゆる勉のルール
ゆる勉準備マニュアル
ゆる勉便利ツール

第四章 ゆる勉の実績

勉強会
ワークショップ
イベント出演
書籍関連

第五章 ゆる勉のきづき

三つのきづき
謝辞

メンバー紹介

第一章担当 テラ

職業：システムエンジニア

趣味：ドライブ、世界遺産巡り

興味：睡眠、経営、近代史

特技：どこでも寝れる

第二章担当 炎丸

職業：OSN相談役、じゅうもく代表、ITエンジニア

趣味：カラオケ、トレード、時代小説

興味：帝王学、コミュニケーション、戦国時代、幕末、トレード

特技：披露宴での歌

URL：<http://enmaru.seesaa.net/>

第三章担当 Mharu

職業：ITエンジニア

趣味：書評ブログ、ジョギング

興味：IT、英語

特技：テニス、速読

URL：<http://io-diary.com/mt/blog/>

第四章担当 たくMAX

職業：システムエンジニア 主にインフラ系

趣味：スノーボード、読書

興味：トレード、マーケティング、ネットビジネス

特技：どこでも寝られる

URL：<http://osntakumax.seesaa.net/>

第五章担当 Dr.OGA

職業：ITコーディネータ、戦略プランナー

趣味：読書、街ぶら、スノーボード

興味：成功哲学、文房具、ファッション、クラウド

特技：夜更かし

第一章

ゆる勉はこうして始まった

Osaka Study Networkとは

Osaka Study Network (OSN) とは、毎月1回5人のメンバーが集まって大阪で活動している勉強会です。

発足は2008年6月で、2011年2月までに計30回の勉強会・ワークショップ等を開催してきました。

特に何も意識することなく普通に勉強会を続けていたのですが、周りからこんなことを言われる事があります。

「堅苦しくなく、和やかな雰囲気がある」

「勉強を楽しんでいる様子が伝わってくる」

「とにかく継続していることがスゴイ」

私たちは全く気づいていなかったのですが、どうやらOSNにも様々な長所があるようです。

そこでなぜそう言われているのかをメンバーで考えてみました。

たどりついた答えが「ゆる勉」、ゆる～い活動方針やルールが良い方向に働いているという事です。

しかし、ゆる勉といってもただゆるくすればいいという訳ではありません。

本書では、なぜゆる勉が良い方向へ働くのかと、そのような勉強会を開催し継続するためのノウハウについて説明しています。

すべての方に有益な情報とはいえないかもしれませんが、勉強会なんて興味がないという方、勉強会が続かない・面白くないという方に少しでもお役に立てれば幸いです。

それでは続きをゆる～く読んでみてください。

勉強会をやりたい！

OSNのメンバーは5人、元々は同じ会社の同期でした。

「勉強会やりたいねんけど、興味ある？」2008年4月、転職を決めたMharuの送別会での一言が事の発端です。

Mharuは当時、共に学びスキルを高めあうことのできる仲間を探していました。

「今のままでは今後の社会で生き残れない、でも一人で勉強しても成果はしれている、共に学ぶ仲間が必要だ。」と考えていたのです。

しかし、当時100人いる同期の中でプライベートで勉強会をやっているという話は聞いたことがなく、そのような真面目な話なんてしたことがないという状況でした。

そんな中Mharuは、かすかな望みを胸に、同期の中でも比較的勉強に熱心そうな炎丸に、話をもちかけたのです。

驚くことに、炎丸の答えは「やる以外選択肢はないわな」でした。

表には出していなかったのですが、炎丸もどこかできっかけを探していたのです。

「普通のサラリーマンにはなりたくない。何かを変えるために、可能性を広げるために、人と違う事をやりたかった。そのためのいいきっかけになった。」

と後日話しています。

その後Mharuから私(テラ)に連絡がありました。

私は社内の勉強会でMharuの読書に関するプレゼンを聞いて以来、勉強に対する意欲が高まっていました。勉強会というものがどういうものか分かっていませんでしたが、ぜひ参加したいと思いきなりOKを出しました。

そして私は、ちょうど大阪に転勤になったたくMAXにも声をかけました。

彼は就職時に大阪を勤務地として希望していたにも関わらず、他の地区に勤務することになりました。4年たってようやく異動希望が通り、大阪に戻って来れたのです。

その経験を通じて彼は「会社に頼りつつたらどうなるかわからん。自分でなんとかせな」と思うようになったのです。

彼もまた自分のスキルを磨くチャンスを待っていたのでした。

そしてDr. OGAはMharuの送別会でたまたま炎丸の近くにおいて話を聞き、酔っ払った勢いで加入する事になりました。

こうしたきっかけと偶然が重なってOSNは始まったのです。

和室しかない！？

初めての勉強会、各自発表資料を作りプレゼンを行うことになりました。

まずは場所を決める事になったのですが、貸し会議室を借りるのも初めてでなかなか見つからず、やっと見つけた場所はなんと、会議室ではなく和室でした。

畳の部屋にスクリーンを立てかけ、ローテーブルの上にプロジェクターを置いてプレゼンを行いました。

始めは違和感があったのですが、やってみるとプレゼンやディスカッションに適している事が分かりました。

通常の会議室だと、前に出て皆の視線を一気に集める事になり、緊張もするし聞いている方も質問しづらいと思います。それに対し、10畳ほどの和室でプレゼンターと聴衆が隣同士であぐらを組み、スクリーンを見つめるという環境はなんともリラックスできるものです。

また、地面に座って低い目線で話をすると、一体感が生まれるという効果もあります。

会社で行う会議も和室でできればいいですね、実際Googleには和室の会議室があるそうです。

堅苦しい勉強会ではなく、リラックスした雰囲気でも和気あいあいと発表や討論などを行うことができる。この雰囲気は和室ならではだと思います。

今思えばこの和室でやるというスタイルが、OSNの雰囲気を形作っていったのかもしれない。

和室がある施設の数はいないので、見つけるのは大変かもしれませんが、ぜひお試しください。ちなみにOSNがどの施設を使っているかはヒミツです。



テーマが決まらない!

勉強会には、マーケティング・プログラミング・デザインなどのテーマがあるのが一般的です。OSNの場合はテーマありきではなく、とりあえず何でも良いからやってみようという考えで始めました。

最初の勉強会のプレゼン内容は、英語・未来予測・メール管理方法・帝王学とバラバラ。それでも楽しいし、勉強にもなるし、テーマがない事によるデメリットは特に見当たりませんでした。

勉強会のテーマを決めようとミーティングを開いたこともありましたが、結局決まりませんでした。テーマを決めない事で、自由な空気が生まれ、思いもよらなかった情報が手に入るというメリットがある事に気づいたのです。すべての勉強会にテーマが不要という訳ではないですが、こんな勉強会もあっていいのではないのでしょうか。

ただ、テーマはなくとも勉強会としての方針はあります。

勉強会のいいところは、グループで勉強しているという事。

メンバーそれぞれが勉強してきた事を発表し、グループ内で討論してフィードバックを得る、それを元にさらに勉強して新たなフィードバックを得る。

こういったサイクルを通じて、ひとりだけで勉強しているよりも多くの成果を得ることが出来ます。一人からグループへ、そこから地域、国へと、より大きなコミュニティでこの良い循環を回していきたいという思いで運営しています。

そのためには、OSNのメンバー自体を増やして巨大なコミュニティにするのではなく、全国各地で勉強会の数を増やしていくという形が良いのではないかと考えています。

大人数のコミュニティは運営面でとても大変で、ゆる勉など言ってられません。少人数で自分達のやりやすい方法で勉強するのが一番だと思うのです。

実は、こういった小さなコミュニティが全国各地に沢山生まれて欲しい、OSNはその小さなコミュニティの一つでありたいという思いもあり、「Osaka Study Network」という名前になったのです。

少しずつですが、OSNに影響されて勉強会を始めたという声も聞くようになりました。

これからも少しずつ勉強会の輪を広げていきたいと考えています。

勉強会の輪が全国に広がれば、日本全体がレベルアップし、元気になっていくのではないかと考えています。

第二章

なぜゆる勉なのか？

勉強はつまらない？

唐突ですが、「勉強」という言葉を聞いて何をイメージしますか？

小学校から受けてきた授業、大学のゼミや研究室での研究、もしくは学校ではなくて塾のようなものを思い出すでしょうか。そしてそこから連想されるのは、難しい、つまらない、眠くなる……。このようなイメージを持っている人は結構いらっしゃるのではないのでしょうか。もしそうなら、とても残念な話です。

勉強に対して悪い印象を持っているという事になります。

でも、本当に難しい、つまらない、眠たくなるのでしょうか。

少し切り口を変えてみます。趣味はありますか？

趣味はないという方、節約術に興味はありますか？収納術、料理、速読、トーク術、読唇術はどうでしょう？人は何かしらに対して興味を持っていると思います。

人間はそもそも好奇心の強い動物です。

しかし、中には何に対しても興味がないという方もいるかもしれません。それでも人は勉強したくなると思います、生きている限り。生きている限り、生きていくための行動をしなければなりませんし、常にそれをするを余儀なくされています。

極端な例を挙げると「息をする」「見る」「歩く」「ご飯を食べる」「寝る」これらを何らかの事情で普通にできなくなってしまった人がいたとしましょう。その人が、以前のようにできるようになる方法があると聞けばどう思うでしょう。「知りたい」と思うのではないのでしょうか。

少し話が回りくどくなりましたが、「幸せに生きられるようになる方法」「お金持ちになれる方法」「モテモテになれる方法」「面白くなれる方法」「スポーツ選手になれる方法」などあれば知りたいと思いませんか。

私は知りたい。そう考えると思います。「知りたい」それは純粋な好奇心から来る気持ちです。

そしてこれが、勉強に対する基本的な気持ちなのです。知りたいと思って、知る。

知りたいと思ったことを知った時には、モヤモヤが一気に晴れて、スッキリするものです。テレビでも、よくCMの前に知りたいというモヤモヤの状態を作って、CMをなんとしても見せようとしています。これは、「知りたい」という気持ちを利用した手法です。人間はもともと好奇心があって「知りたい」という欲求を持っています。そして知ることは気持ち良いのです。

私の周りには、大人になってから読書にはまったという人が多くいます。

昔の教科書のイメージが離れず、本嫌いになる人が大半ですが、一度興味がある本を読み始めると病みつきになるようです。昔のように興味のないことを無理やり押し込むというのではなく、欲しているものを得るといった感覚が実に爽快なのかもしれません。

また、セミナーや研修を受けて勉強の楽しさに気付く人もいます。

会社から命令されて行くのではなく、自分で欲している情報を自ら得ようとする場合に気づく場合が多いです。こういう経験ができる人は幸せな人です。すべてのセミナーや研修で同じ経験ができるわけではないからです。人それぞれ求めるものが違うし、目からうろこが落ちるツボも違うでしょうから。

とにかく、押しつけられるものは何でもつまらなくなるものです。

今大好きなものでも、もし幼少期からそればかり押し付けられていたらおそらく嫌になっていると思います。逆に、自分から自発的に取り組むことはなんでも楽しくなります。

私は実際に勉強したいこと、知りたいことだらけです。

どうやってそれを知ったらいいか分からないのであくせくしています、モヤモヤしています。

昔は時間があったのに知りたい気持ちが小さかった。今は知りたい気持ちが大きいけど、時間が限られている。

自分が興味を持っていない事であっても、惹かれる場合があります。

自分の知らない世界の話を聞いて、「へえ〜」とか「そうなんだ」と感心したり、雑学であったり、うんちくを聞いて他の人に話したいと思ったり。

興味のあるなしに関わらず勉強とは人間の好奇心を満たしてくれるものです。

今だに勉強に悪いイメージを持っている人には、是非勉強本来の楽しさを味わってもらいたいです。

勉強の楽しさに気づくと、世界が広がります、見えてくるものが変わってきます。試しに、興味のあることに向き合って自発的に行動してみてください。調べて知って行動して、何か感じた事があれば他の人と共有してみると、自分でも思ってもみなかったなことが起きます。嘘みたいに聞こえるかもしれませんが、私たち自身、誰も今のような未来を想像できていませんでした。

ぜひ、勉強を楽しんで下さい。

混沌とした時代を生きる

高度成長期、それは日本社会全体が大きく成長した時代。

決まった作業をいかに効率よくこなすかという能力が求められ、それを極めた企業は競争力がつき、大きな力を持っていました。

今の世の中はどうなっているでしょう。

バブルの崩壊と共に、作っては使うを繰り返す大量生産・大量消費の時代が終わりました。巷には物があふれ、皆と違う物が欲しいと思うようになり、価値観の多様化が進んでいます。

一方経済の面では、20年間も成長が伸び悩んでいます。

この停滞感から脱せずにいるのはなぜでしょう。

今の世の中に求められているものは、効率性だけではなく、プラスアルファの価値です。

世の中の人々も時代が変化する中で、プラスアルファの価値を生み出すために意識が変わりつつあります。しかし、まだまだ模索中なのではないでしょうか。20年間、日本は模索を続けているのです。

今の世の中は混沌としています。「一流企業に勤めていたら安心」「終身雇用は当たり前」「老後は年金生活」という考えは、今の世の中では通用しません。インターネットの力を使えば個人でも大きな影響力を持てるようになりました。そして力のある者とない者の差が広がってきています。

高度成長期の日本では「一億総中流」という言葉が表すように、ほとんどの人が自分を中流だと思い、そこそこ満足していました。

今の混沌とした時代とどちらが良いのでしょうか？

昔のようにほとんど人がそこそこ満足している社会なら、大して苦勞もせずに生活できるかも。昔のように、ほとんどの人がそこそこ満足してる社会の中で、自分だけ満足できない生活になるのは怖い。

今の混沌とした社会の方が、実力さえあればどこまでものし上がれるから良い。

今の混沌とした社会では、常に頑張らないと置いていかれそうで怖い。

人によって考え方は色々でしょう。

いずれにせよ、もう高度経済成長期はやってこないのです。とにかく、今をどう生きるかを考えなくてははいけません。

今は大きく力を貯める時です。

こんな状況ですから、自ずと勉強会が流行るのも納得がいきます。自分の能力を高めるためのビジネス書もブームになりました。

今の世の中を歴史で例えるなら、まさに戦国時代です。

世は混沌として秩序は崩壊し下剋上もあちこちで起きています。この先に待つものはなんなのでしょう。

歴史的に見ると、戦国時代が終わると、江戸幕府が始まり、身分制度が確立して世襲制度が幅をきかせるようになりました。そしてそれが二百数十年続きました。

世の恒として、時代が変わるときは前の時代を脱却しようという力が変化の原動力になります。戦乱が長引けば民は疲弊し、世の中に平安をもたらそうとする勢力が現れる。そして平安が長く続くと、それはそれで停滞感が生じてきて、何かのきっかけで激動の変化を迎えることになります。

戦国時代が120～130年。

その後の江戸時代が260～270年。

その後の明治から終戦までの激動の時代が、70～80年。

終戦からバブルの崩壊までの高度成長期時代が、45年。

バブルの崩壊から今までが20年。

このように世の中のスピードが速くなってきているので、サイクルも短くなってきています。今の停滞感も今すぐ終わるかもしれないし、遅くとも数十年以内には何らかの方向性が見えてきて、それに向かって走り始めると推測できます。

今力を貯めておかないと、混沌期を抜けたとき、世の中の流れに乗り遅れてしまいます。

では、この停滞感を払拭するには何が必要なのでしょうか。

私が思うポイントは「安定思考」と「価値観の多様化」です。

安定思考といってもリスクを取らずに現状のままでいるという考えではなく、「チャレンジし、変化していく事が結果的に安定につながる」といった考え方です。これから時代を動かす若者はこういった考えを持っているのではないのでしょうか。

そして価値観が多様化する社会に対して、どのようなサービスを提供するか。

うまくニーズとマッチすれば名もない企業であっても成功する事が可能です。

この2つのポイントによって、これからの時代の潮流が作られていくのではないかと推測しています。

今だからこそ、ゆる勉

情報が溢れ、世の中の移り変わりが早い現代、すぐに結果の出る方法、楽しく効果の出る方法が求められています。しかし、どれだけの人がそれに挑戦し、どれだけの人が効果をあげているのか疑問に思います。

なぜ、便利な方法、効率的な方法があるのに、効果が出ないのでしょうか。

OSNでは、巷に溢れる様々な方法を試してきました。そこで、一つの仮説に辿り着いたのです。世の中にある色々な方法に効果がないとは言いませんが、重要な要素を見落としているのです。それは、方法を見いだすまでの于用曲折、長短の道のりです。

世の中にある便利な方法は、すぐにポツと出てきたわけではありません。

千里の道も一歩からというように、一步一步の積み重ねがあって、方法が生まれたのです。

その積み重ねは決して無駄ではなく、それがあから集大成があるのです。

しかし、大多数の人はそこに目を向けず結論だけを欲しがっています。

結論だけが欲しいという世のニーズに対して、不要だと思われるものを押し付ける人はあまりいません。

その結果、無数の方法が世の中に溢れかえってしまうのです。

方法だけか世の中に出て、そこにたどり着くまでの道のりが無視されるようになるとどうなるでしょう。

例えば、「コミュニケーションを円滑にするには、聞き手に回る事が必要だ」と聞き、それを実践するとしましょう。

相手に対して様々な疑問、質問を投げかけ、話を聞き出します。相手が自分に質問してきた際も答えはほどほどにして、さらに相手へ質問をぶつけます。自分の事は話さず、聞いて、聞いて、聞いて、、、うっかりストーカーと間違われて通報されないように気をつけてくださいね。

ここで考えないといけないのは「なぜ聞き手に回るのが重要なのか」という事です。

ほとんどの人は自分の話を聞いて欲しいと思っています、そしてそれが満たされると相手へ質問をしたくなります。その気持が分かっていないと上記のような事になってしまうのです。

でもこれは一般的な話であって、文化や性格によって差異はあると思います。

それらは体験していく事でしか学べません。

方法に加え、結論に至るまでの経験が必要なのです。

結論に至るまでには様々な経験をし、その中で失敗や成功を繰り返し、技を磨いて行きます。

そこで目に見えない、形にすることのできない、考えであったり感覚が養われます。

これらは、何かを真似したからといってすぐ身につくものではありません。

これからの時代、新しい価値観が次々と生まれ多様化し、それとともにニーズも細分化する。世の中に価値観が溢れて、混沌となるほど、一方では生活に安定を求める。そんな時だからこそ、生活していけるほどの収入を確保しながら、新たな道を模索し続ける。われわれはゆる勉をすることで、それを実現しています。

常に新たな道を模索し続けることが、経験を積み感覚を養う事になります。それは一見、新しいことに取り組むアクティブな動きに見えるかもしれませんが。しかし、それが逆に今の世の中では安定につながるのです。昨日まで正しかったことが、今日ではもう通じなくなる世界です。常に変化を遂げている世の中で、変化をしないことのリスクははかりしれません。

ゆる勉を通して、

- ・勉強会でメンバーが持ち寄った知識を情報共有する
- ・合宿で自分を見つめ直す
- ・ワークショップでイベントの企画や運営を試みる
- ・活動を続けるためにはどうすればいいかを考えてみる
- ・活動を通して人材交流してみる
- ・未来予測を試みる
- ・会を掛け持ちしてみる

なんでもありです。

それこそ可能性は無限大で、色々な経験ができます。

それが、今の世の中を生き抜く力として大変役に立ってます。

勉強会を始めた当初は会のテーマを決めてそれを中心に運営していこうという、当然の話ができましたし、それに何の疑問も抱いていませんでした。

しかし、ある時のワークショップで参加者の方に「何も決まらなくて何でもできることがうらやましい」と言われ、考えが変わりました。以降、勉強会のテーマを決めようという話はおなくなりしました。

何も決めずに各々がやりたいことを勝手にやっています。だからと言ってバラバラに活動しているというわけではなくて、誰かが出した企画は、皆で真剣に考えて取り組みます。それが経験が実績につながっていくのです。

こんな時代だからこそ、誰かに言われたことだけをやるのではなく、主体的に行動する力が求められてきます。

主体的に行動すると、毎日が充実してきます。それを我々は身を持って感じる事ができました。

さあ、ゆる勉をはじめよう

OSNが開催しているのは、勉強会といっても、堅苦しいものではありません。だから「ゆる勉」って言っています。

こんな時代だからこそ力をつけるために主体的に行動しよう、そしてそれを続けようという話をしました。

主体的に行動のできる形として我々に適していたのが、ルールもノルマもゆるい、「ゆる勉」だったのです。

ポイントは2点。

1点目は、ルールもノルマもゆるいということ。

一応あるけれども、反したからといって罰則があるわけではありません。

ビジネスの現場では、納期やノルマなど、日常的になんらかのプレッシャーを受けながら作業をしていると思います。

そういった環境とは全く切り離されています。

公私ともにプレッシャーを感じる環境だったら続いてないかもしれません。

OSNも最初から「ゆる勉」という形を取っていたわけではありません。

なるべく続くようにというのを意識して行く中で、出来上がった環境なのです。

2点目は、グループで相乗効果を生み出すということ。

ゆるい雰囲気なので、目的意識もなくなるとなく集まることもあります。

勉強会に行く前は、「今日は行く意味あるかなあ」と思う事もあります。

しかし、そんな気持ちも毎回裏切られます。

なんとなくぼんやりとした目的の会話から、気付けばいいアイデアが生まれ、予想以上に盛り上がる展開になっています。考えも性格もバラバラのメンバー達が、お互いを尊重し合いながらも率直に意見をぶつけ合う。

そこからは大きなエネルギーが生まれてきます。

3人寄れば文殊の知恵というのは、あながち嘘ではないようです。

一人で勉強しているうちは、こういった事は起こり得ません。グループで勉強する事こそ、成果を飛躍的に上げるための方法ではないでしょうか。

この2点を併せ持つ「ゆる勉」が今の世の中には適していると思うわけです。

これから全国各地に「ゆる勉」が出てくることを期待しています。

第三章

ゆる勉のルール・ノウハウ

ゆる勉のルール

OSNの活動内容は主に「勉強会」「ワークショップ」「合宿」があり、ゆるく活動するといっても一定のルールはあります。ここでは、どのようなルールで活動しているのかを紹介します。

・勉強会

OSNの勉強会では、テーマ自由のプレゼンを行ないます。

制限時間は決まっておらず、短い場合は15分くらい、長い場合は40分ほどかかる場合もあります。発表形式はパワーポイントやマインドマップ、ホワイトボード、資料なしで口頭のみなど自由に選択できます。

テーマが決まっていないので発表者は好きにプレゼンできるし、聞いている側も何を教えてくれるのかというワクワク感があります。プレゼン中に質問したり意見を言ったりしても構わず、お菓子を食べながらワイワイ進めていくのがOSN流です。

プレゼンが終わったら質問やディスカッションを行います。ダメ出しは一切せず、「そのアイデアに、こんなの加えたらどう?」「それ今度使わせて!」「次はそれの続編よろしく!」など、その場が盛り上がるようなトークが繰り広げられます。

特に発表するネタがない場合は、聞くだけでも問題ありません。

資料は準備してこなかったのに、その場になって話したいことが見つかり、プレゼンを始めるなんてこともたまにあります。

このように、ビジネスの場で行うプレゼンテーションとは大きく異なっています。

「プレゼンの練習にならないじゃないか」という声も聞こえてきそうですが、ゆる勉は"勉強という名のついた遊び"であり、仕事のための練習ではないのです。

結果として大いに仕事には役に立っているのですが、この場ではそんな事は考えていません。

ゆる勉の雰囲気は、小学生が友達の家に行って皆でワイワイ言いながらTVゲームをしている感じに似ていると思います。「そなんあるんだ、スゴイ!」「うわ~やられた」「うんうん、わかるわかる」「それでそれで?」といった会話が飛び交い、プレゼンターだけでなく聴衆も一体となってその場を作っているのです。



・ワークショップ

体験型のセミナー（ワークショップ）を不定期で開催しています。

OSNメンバーがファシリテーターをつとめ、参加者に体験を通じた学びを提供します。

ポイントは我々が「教える」のではなく「参加者が自ら学ぶ」ということ。

OSNはお題を提供して進行をするだけで、特に何も教えたりしません。

そもそも我々が教えられることなどしれています。それならいっそ参加者に学んでもらおうというのが事の始まりでした。

それにセミナーだとどうしても受身になってしまいがちで、学んだ事を実践するところまで持っていくのは困難です。体験を通じた学びというのは強烈に印象に残り、その後の行動につなげやすくなります。内容については後述しますが、どんな人でも手軽に体験できて、体験前と後で価値観が変わるようなお題を提供しています。

折り紙を使ったワークショップ



・合宿

年に1回、1泊2日の合宿を行っています。

第1回は高野山の宿坊で写経体験、第2回は延暦寺の宿坊で座禅体験と、なぜか宿坊に行く事になっています。

値段も手頃ですし、緑に囲まれていて環境も良く、とてもリラックスできます。

環境を変えてたっぷりと時間を使うことで、普段考えられないような長期的なビジョンや、大きなテーマの議題について話し合うことができます。

プロジェクターやスクリーンはないので、画用紙とマジックを持ち込んでプレゼンやディスカッションを行います。

パソコンを使ったプレゼンも良いですが、たまにはアナログな形式でやるのも悪くありません。

この合宿の中で、ワークショップの内容や電子書籍プロジェクト、今後の目標なども決まりました。

高野山の宿坊でミーティング



初めて勉強会を開催する場合に、どうやって準備をしたら良いか分からない方もいるかと思いますが、ここでは、OSNがどのように準備をしているかを説明したいと思います。

貸し会議室

勉強会やワークショップを行うための貸し会議室の予約が必要です。

財団法人や市営の貸し会議室は、3時間借りても数千円と費用が安くおさえられるのでおすすめです。

最近はインターネット予約ができるところも増えてきましたが、FAXや郵送のみという施設があるので注意が必要です。プロジェクターやスクリーンなどの備品類の値段も事前に調べておきましょう。

各都道府県や市のホームページから、施設情報を確認することができます。

※大阪府内で探す場合の例

- ・大阪府の公共施設一覧

<http://www.pref.osaka.jp/annai/shisetsu/index.php>

- ・大阪市施設一覧

http://www.city.osaka.lg.jp/shimin_top/category/724-28-0-0-0.html

施設予約時のチェック項目

- 予約方法
- 交通手段
- 制限人数
- インターネット可否
- プロジェクター・スクリーンの料金
- 飲食持ち込みの可否

持ち物

内容によって変わりますが、基本的な持ち物を紹介します。

勉強会用

- ・ノートパソコン
- ・ウェブカメラ
- ・メモ帳
- ・お菓子

勉強会の内容は出来る限り動画に残しておきましょう。振り返りをする時に役立ちます。
また、気づいた事はメモをしておき、その場でフィードバックする事も重要です。
お菓子は各自買って持ち寄り、気分転換やリラックスしたムードを作るために使います。

ワークショップ用

- ・ A3用紙
- ・ プロッキー（マジック）
- ・ 名札ケース
- ・ アンケート用紙(A4)

ワークショップでは個人あるいはチームごとに、その日の学びを共有してもらいます。その際に役立つのはA3用紙とプロッキーです。内容によってはA4の方が良い時もあるので、状況によって使い分けます。

・ Kingsoft Office

<http://www.office-soft.jp/>

マイクロソフトオフィスの約10分の1の価格ながら、ほぼ同じ機能を使えるオフィスソフトです。

安い割にとっても使い勝手がよく、タブでプレゼン資料を切り替えられるなど、マイクロソフトオフィスにない便利機能もあります。



記録ツール

後で振り返りを行うためにも勉強会の記録を行う事はとても重要です。

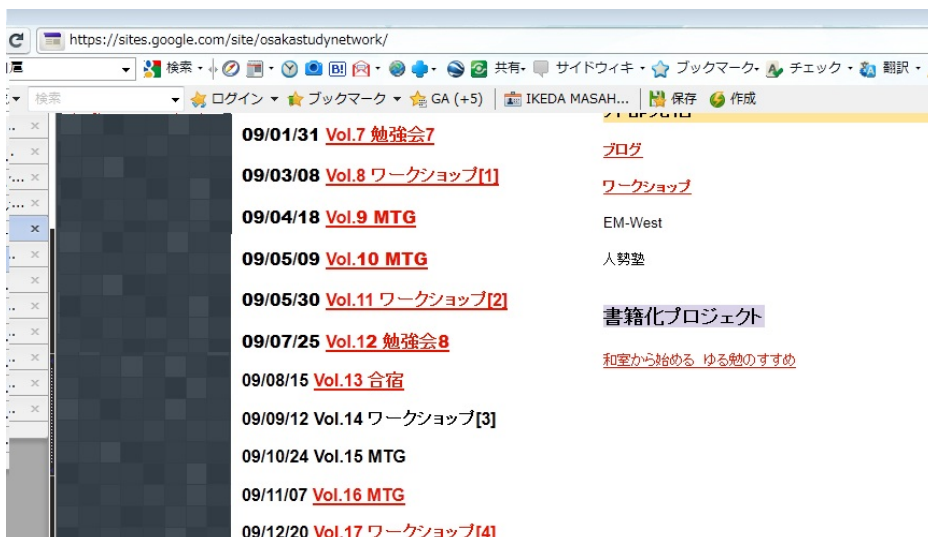
できるだけ安く簡単に記録をするために、下記のツールやサービスを使用します。

・ Googleサイト

<http://www.google.com/sites/help/intl/ja/overview.html>

特別な知識がなくても無料で簡単にWEBページを作成する事が可能なGoogleのサービスです。OSNの勉強会のプレゼン動画や資料、議事録や写真などはすべてOSNのGoogleサイト上で参照する事が可能です。

もちろんメンバー以外は閲覧できないようになっています。



・カムタジアスタジオ

<http://www.capture-soft.jp/>

パソコン画面のキャプチャ及び、プレゼンターの動画も撮影できるソフトウェアです。

操作が簡単で、高度な編集機能もついています。

勉強会の様子はすべて動画で撮影されており、出席できなかったメンバーも後で見る事が可能です。

プレゼンターは自分の動画を客観的に見ることができ、今後の改善に役立てることもできます。

・ eyevio

<http://eyevio.jp/>

大容量の動画ファイルをアップロードすることができる動画共有サイトです。

動画の閲覧にパスワードを設定し、メンバーのみに公開する事ができます。

短いプレゼンであればYouTubeでも構いませんが、30分を超えることもしばしばあるのでこのサービスを使用しています。



コミュニケーションツール

普段ほとんど会うことがないので、各種ITツールを利用してコミュニケーションを行っています。

・ Google グループ

<https://groups.google.com/?hl=ja>

メーリングリストとして使い、面白い情報の共有や相談事など、急ぎではない用事についての共有をしています。

・ チャットワーク

<http://www.chat-work.com/ja/>

日々のちょっとした連絡等はチャットを使います。チャットツールは色々ありますが、チャット

トワークはクラウド型サービスであるため、インストールも不要でどこでも簡単に確認する事ができるのが利点です。

- ・ Skype

<http://www.skype.com/intl/ja/home/>

どうしても口頭で話をしないといけない場合は、Skypeのグループ通話機能を使います。忙しくて集まらない場合、どうしても会議室が取れなかった場合などに重宝します。

- ・ Googleカレンダー

<https://www.google.com/calendar/>

勉強会やワークショップの日程は、OSNのGoogle カレンダーに登録し、各メンバーに共有しておきます。

「次は何日の何時からどこでやるんだっけ？」というような会話が昔はよく行われていたのですが、Google カレンダーを導入してからそのような事はなくなりました。

- ・ 名刺

VistaPrint

<http://www.vistaprint.jp/vp/welcomeback.aspx?xnav=top>

Webで簡単に名刺を作れるサービスです。

OSNではメンバーそれぞれが名刺を持っていますが、デザインはみんなバラバラです。

勉強会として認知度を上げるためには統一したデザインの方がいいかもしれませんが、それよりもメンバーの個性を尊重し、好き勝手に作成できるようなルールにしています。

第四章

ゆる勉の実績

勉強会

OSNのこんなゆる～い勉強会ですが、約3年で小さな実績や少し大きい実績ができました。これまでの実績や今まで行ってきた活動、打ち合わせの様子などを紹介したいと思います。

OSNとして何が実績となるのか？と考えたとき一番に思いつくのが、

「勉強会が続いている」

という事です。

「月1回集まってるだけじゃないのか」と思われるかもしれませんが、確かにおっしゃる通りです。2008年の6月から2年半、月1回のペースで勉強会、ワークショップ、ミーティング、合宿といった形で活動してきました。勉強会というと硬いかもしれませんが、実際はゆるくちょっと勉強っぽい事をしながら月1回集まる、そしてペースを崩さず続ける。このちょっとした小さな実績を積み重ねたからこそ、次から紹介する様々な実績が生まれたのだと思います。

では、過去どのような内容の勉強会（プレゼン）をしてきたのかを紹介します。

[過去のプレゼン紹介]

◎勉強法

それでも英語を勉強しませんか？

インディビジュアル・リーディング

◎投資・資産運用

投資信託のススメ

生命保険に入る！

FXスワップ運用のススメ

投資ゲーム

マル秘節約術

人の感情投資編

◎ライフハック

メール管理方法

睡眠

アナログツールのすすめ

明日から激変ボディインフラ

マル秘手帳術

TIME PRODUCING～時間を生み出す仕組み～

◎中国

中華人民共和国の成立

ツボ

南京大虐殺とは

中国クイズ12

客家大富豪18の金言

◎コミュニケーション・リーダーシップ

帝王学のススメ

モチベーション

リーダーシップ理論

教養と商人

簡交渉TECH

マジ空気読める

チャンスは人に乗ってやってくる

◎メンタル・思考

心の話予告編

成功する人と運

経営理念って重要

目標は必要か？

マイナス思考の樹を切り倒せ！

◎ツール・制度紹介・体験談

PPC広告の仕組みを知ろう！

裁判員制度って知ってる？

私とiPhone4

iPhone & AR

◎理論・フレームワーク

フェルミ推定を検証してみよう！

「OSNでVIAをやってみました」

三日坊主よサラバ！～行動科学で運命が変わる～

なぜ競馬は、12レースがお得なのか？

ワークショップ

ビジネス書、セミナー・・・読むだけ、聞くだけでは終わりたくない。『実験してみよう！』そんな雰囲気です。毎週大人が遊べる空間を提供しています。

OSNワークショップの参加者はセミナーやワークショップの経験に関わらず、前向きな気持ちで参加していただいているので、開催者側としては大変助けられています。

ここではワークショップでどんなことをやってきたのか紹介したいと思います。

1. 思考のフレームワークで遊んでみよう！

記念すべき第1回目のワークショップです。

KJ法とマインドマップという2つの思考のフレームワークを体験しながら学んでみよう！

という内容でした。

・KJ法

KJ法（-ほう）は、文化人類学者川喜田二郎（東京工業大学名誉教授）がデータをまとめるために考案した手法である。データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて、図解し、論文等にまとめてゆく。KJとは、考案者のイニシャルに因んでいる。共同での作業にもよく用いられ、「創造性開発」（または創造的問題解決）に効果があるとされる。

・マインドマップ

表現したい概念の中心となるキーワードやイメージを図の中央に置き、そこから放射状にキーワードやイメージを繋げていくことで発想を延ばしていく図解表現技法。この方法によって複雑な概念もコンパクトに表現でき、非常に早く理解できるとされ、注目され始めている。人間の脳の意味ネットワークと呼ばれる意味記憶の構造によく適合しているので理解や記憶がしやすい。

※wikipediaより抜粋

このKJ法「収束思考」とマインドマップ「発散思考」という逆の思考のフレームワークをそれぞれ楽しく体験してもらって、参加者にその違いや活用方法を学んでもらいました。

OSN初のワークショップで色々戸惑った点もありましたが、参加者の皆さんには嬉しい意見をいただきました。

・KJ法ワークショップのお題

「大阪城公園 大改造計画！！ ～みんなのアイデアで大阪の財政難を救え～」
大阪府の経済を活性化するために、大阪城公園を好きに改造して良いと言われました。
さて、どのように改造しますか？

KJ法を使って、意見をまとめてみましょう。

・交渉ゲーム

交渉を持ちかける側2人、交渉を受ける側2人、計4人のグループを3つ作ります。

OSNは交渉を持ちかける側のメンバーに指示を出しておきます。ポイントは、3チームにそれぞれ違った指示を出すという事です。

同じ交渉内容でも、指示の違いによってどのような結果となるのか・・・



・目隠し指示ゲーム

参加者数人でグループを作り、そこから一人代表を選出します。

代表者以外(以下、メンバー)にはアイマスクをつけてもらい、あるスペースに連れ出されます。

代表者にはメンバーに知られないように、OSNから指示を伝えます。

代表者は声だけを使ってメンバーに指示を出し、メンバーを指定の位置に誘導してもらいます。

言葉だけでどこまで意思が通じるのかを体験する事ができるゲームです。



交渉ゲームでは、面白いように見事にチームによって結果が異なりました。

コミュニケーション能力に自信のあったメンバーも、指示の出され方によって全然うまく交渉できないという事に気づき、衝撃を受けていました。

目隠しゲームでは、言葉だけではいかに誤解が生じるかというのを、身を持って体験していただきました。

座学だけではなく、実体験を通して学んだ事は強く印象に残ると思います。

アンケートでは、続編を期待する声も多く寄せられました。また別の形で開催したいと思っています。

3. エクストリーム折り紙

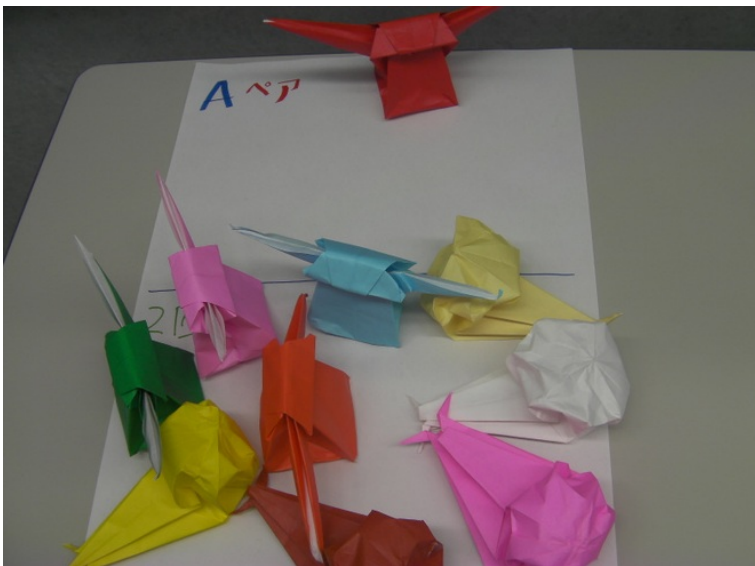
コンピュータソフトウェア開発において「エクストリームプログラミング」という手法があります。

その「エクストリームプログラミング」という手法のひとつに、2人でプログラミングを行う「ペアプログラミング」という取り組みがあります。

これは2人のプログラマーが1台のパソコンを使って開発を行うというもので、一説では1人で行った場合の2倍以上の生産性があると言われています。

これをプログラミング以外の事でやってみて、検証してみよう！

という事で「エクストリーム折り紙」というワークショップが生まれました。



・参加者の感想

「課題の共有ができる」

「どこが分からないのが見える」

「教育的効果がある」

「品質と生産性についてもう少し突っ込んで検証したい」

「クリエイティビティについても比較できたらよかった」

ペアでやることによるメリットは色々ありましたが、品質や効率性も考えながら取り組んでいく必要があるという事が分かりました。

ワークショップは講師から教わる場ではなく、自ら主体的に学んでいく場です。実体験を通して学んだ事は深く印象に残り、その後の行動に影響を与えます。

そしてワークショップの内容に絶対的な答えはありません。それぞれが自分なりの答えやそれらしきものを見つけ、今後の生活につなげていくのです。

今後も継続的にこういった場を作っていきたいと思います。

イベント出演

活動を始めて一番大きな実績ではないかと思うのが「Agile Japan2010」への出演です。

Agile Japanは、アジャイルを軸に本気で現場改革を進める、ビジネスマインドを持つ人の交流サイトです。

・アジャイルソフトウェア開発

アジャイルソフトウェア開発 (アジャイルソフトウェア開発、英: agile software development) は、ソフトウェア工学において迅速かつ適応的にソフトウェア開発を行う軽量な開発手法群の総称である。近年、アジャイルソフトウェア開発手法が数多く考案されている。ソフトウェア開発で実際に採用される事例も少しずつではあるが増えつつある。アジャイルソフトウェア開発手法の例としては、エクストリーム・プログラミング (XP) などがある。非営利組織 Agile Alliance がアジャイルソフトウェア開発手法を推進している。

※Wikipediaより抜粋

アジャイルの日本での第一人者の平鍋健児氏が実行委員長を勤め、ゲストとして『失敗の本質』『知識創造企業』他多数の名著を書かれている野中郁次郎氏を初めとして多数の著名人を迎えた大規模なイベントでした。

2日間に渡って開催され、参加費2日で1万6千円という高額にもかかわらず、200人の定員が満員になるぐらいのイベントで私達にとっては、発足してから一番のビッグイベントになりました。そんな大舞台にOSNが出ていいものかと、正直とまどいしましたが、ここでも「やってみよう！」の精神で引き受けることにしました。

経験も知識も人脈も少ないOSNがAgile Japanで何ができるのか、ミーティングを重ね、たどりついた答えが「場を提供すること」。「教える事はできないけれど、参加者にとって有益な「場」を提供する事はできる！」という事で、イベントで学んだ事を持ち帰って実践するための場を提供するワークショップを開く事にしました。

約半年前から準備を始め、毎月ミーティングを行い、2回のプレワークショップを行い、内容をブラッシュアップしながら本番に向けて準備をしました。

その間、通常の勉強会はできませんでしたが、多くの気づきを得る事ができ、大変有意義だったと思います。

そして2回の準備ワークショップを経て決まったタイトルは

現場に持ち帰るまでが**AgileJapan!**～明日から実践するための『持ち帰り型』ワークショップ～『持ち帰り型』とあるように、学んだ事を持って帰っていただくのを目的としました。

ポイントは「いかにメンバーを巻き込むか」。

メンバーを巻き込むためには「あれをやってくれ」「こうやってくれ」と指示するのではなく、

自発的に行動できるような仕組み・環境を作る事が重要です。

その事を意識していただきながら、成果物をまとめ、発表していただきました。なかなかテーマややるべき事が見えてこないチームもありましたが、なんとか無事に皆さん成果物を完成させることができました。参加者のアンケートも予想以上の結果で初のビッグイベントは、まずまずの成功をおさめました。

参加後のアンケートの結果

[満足度]

とても参考になった 66.7%

参考になった 33.3%

[感想]

同様の問題意識を持つ人がいたこと、行動のきっかけになったことが良かった。

持ち帰り題材ができてよかったです

どう展開するか、を意識できた

OSNの熱意が素晴らしかった

色々な考えの人とディスカッションためになった。

「実験してみよう！」の精神があったからこそ、このイベントへの参加も決意できたのだと思います。

方向性が決まる前であれば、もしかしたら辞退していたかもしれません。

そして、2011年のAgile Japanにも出場オファーが来ました。今回ももちろん、新たな実験を試みたいと思います。



書籍関連

地道に活動が続けていく中で知名度も上がり、書籍に掲載された事もありました。わずかですが、掲載履歴について紹介致します。

『「ビジネス書」のトリセツ』

出版社: 徳間書店

著者: 水野俊哉

「各地の勉強会や読書会」というページで紹介されています。

水野氏は書籍の中でこう語っています。

「ビジネス書を読んで知識という栄養を入手したら、かならず日々の業務に活かし、仕事の筋力を鍛えるのである。あくまで知識を金にする、スキルアップするという目的のための手段としてのビジネス書であり、ビジネス書を読むこと自体が目的ではない」

つまり、インプットした後はアウトプットが必ず必要だという事です。そのアウトプットの場のひとつとして勉強会を利用してみてはどうかという事が述べられています。

OSNの「実験してみよう!」という言葉も、インプットだけでは意味がないという事を表しています。

OSNのメンバーは元々アウトプットが好きなメンバーばかりですが、勉強会を定期的に関くことによってさらなるアウトプットが生まれ、そしてそのためのインプットにもつながっています。

『口ベタでも人を動かす 魔法のプレゼン』

出版社: あさ出版

著者: 山田 進一

「プレゼンの参考になるブログ」としてOSNが紹介されています。

『EM WEST Vol.01』

発行元：株式会社マナスリンク

ソフトウェア・エンジニア向けフリーペーパー

エンジニアのためのフリーペーパーである『EM ZERO』の西日本版です。

『EM WEST Vol.1』の西日本コミュニティ巡りというコーナーを書いてみないかというオファーを頂き、で2ページに渡って書かせていただきました。

OSNとは何者なのか、またAgile Japan出演の様子などを紹介しています。

『和室から始めるゆる勉のすすめ』

そして、今読んで頂いているこの電子書籍が実績の一つとなります。

電子書籍を出版しようとメンバーから提案があり、2010年の夏合宿を通して具現化されました。

一昔前までは、出版というごく少数の権威のある方がするというイメージでした。

ここ最近では、主婦やサラリーマンが書いた本も多く、まして電子書籍となると誰でも出版できる時代。

ただ、誰でも出版できる状態と実際に出版すると言うのは、大きな違いがあります。

どうなるか分からないけど、チャンスがあるならとりあえずやってみよう！という事でチャレンジしてみました。

書くことや表現する事の難しさを味わい、予想以上に時間がかかりましたが、とても良い経験になりました。これからも機会があれば書いていきたいと思えます。

第五章

ゆる勉のきづき

三つのきづき

ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

最後の章ではこれまでのゆる勉を通して私たちが得た、三つの大きな「きづき」をご紹介しますと思います。

『築き』

友情、チーム、人との縁・・・色々な繋がりが築かれていきました。

ビジネスじゃない、強制じゃない、そんな「ゆるさ」が幸いしたのか、IT業界だけでなく幅広い分野の人と知り合うことができました。

そして知り合った人がまた、別の「場」へ案内してくれる、そんな広がりが続いています。

そういえば私Dr.OGAとMharuは、ゆる勉を始めるまで短い会話を数回しか交わしたことがありませんでした。こうやって毎月一緒に勉強会をやる事になるなんて、思ってもいませんでした。

そして「築く」といえば、もう一つ。

日本語の「築く」よりも英語の「build（ビルド）」がうまく当てはまるかもしれませんが、ボディビルディングのように「筋力」が自然と鍛えられていました。

ここで言う筋力とは、話す力、きく力（聞・聴・訊）、学ぶ力などの事を指します。

私の場合、わかりやすい例としてプレゼンがあります。

4年前、私は会社でプレゼンの機会を与えられ、数十名の前で発表をしました。自分でいうのも何ですが、それはヒドイものでした。時間をかけて準備したにも関わらず、緊張したこと、思いを伝えられなかったこと、わき汗ダラダラだったことしか覚えていません。

あれから時は経ち、最近も同じようなプレゼンの機会がありました。忙しい時期と重なってしまい、ほとんど準備に時間を取れなかったのですがなかなかの好評でした。

準備を始める段階でゴールのイメージがなんとなく見えてきたので急いで骨子をつくり、根拠や付加情報で肉付けをし、デザインをイメージして頭の中を整えていざ本番！

と言った感じでした。

もちろん、いつもこんな風にうまくいくわけではありませんが

「聞き手がどんな風に感じるか？」

「聞き手が私に言ってほしいと思っていることは何か？」

を考えられるようになったことが大きなポイントだと思っています。

また、ゴールや流れをイメージする「カン」も少し身についてきたように感じます。

また「場数を踏んできた」という事も、プレゼンがうまくいくようになった要因の一つだと思います。

会社の中だけではプレゼンの機会などそんなになく、それらは練習ではなく本番という方も多

いのではないのでしょうか？

失敗できないから、思い切ったこともできない。だからなかなか限界を広げられない。

そういった意味で勉強会は、場数を踏み、トライ＆エラーを繰り返しながら自分の限界を広げていける絶好の練習場だと思います。

特にゆる勉であれば失敗しても、笑いが起こるくらいのものでしょう。

『機突き』

この間あるメンバーが「思っていた延長線上には、今いないよね」と言っていました。

どういう事かという、ゆる勉を始めた頃になんとなくイメージしていた結果の、大きく上を行っているということです。

今考えると、OSNは何度もチャンス（機）を突いてきました。

前章でAgile Japan2010というビッグイベントに出演したと書いていますが、内々で始めた勉強会グループがIBM本社でプレゼンターをしたのですから大きなチャンスをものにしたと言えるでしょう。そしてありがたい事に、2011年のイベントにも出演依頼をいただきました。

また、何度かワークショップを開催し、その度に笑いあり、学びありの「自分でもその場においてよかったな」と思える勉強会になっています。

ゆる勉は自由です。

だからこそアンテナをはり、良いものをキャッチする感性は磨かれていきます。

こういうのが面白いんじゃないか？

コレとコレをくっつけてみると、もっと学びが深まるんじゃないか？

そんなことをメンバーが日頃から考えています。

個人差はあると思いますが、この自由さがパフォーマンスを高めています。

近々の機突きとして「かなりアホで面白いことを大規模に」やってみようと目論んでいます。乞うご期待。

『気付き』

築いてきた人との繋がりから、チャンスがやってきた時、それに応える力があるということ。

そして、それはゆるい勉強会という場で養われたこと。これは事実です。

初勉強会からこれまでのことを振り返ってみると、ある分岐点がありました。

内々だけでやっていた集まりから、外の人たちへも働きかけをしようと思った瞬間です。

外向きにベクトルが向いたその時から一気に加速しはじめました。

きっかけは、私がある交流会で出会った方の一言でした。

「勉強会をしていたよ。一年くらいでみんな集まらなくなって終わっちゃった。」

今でもその時感じたことを忘れていません。

企業も生き物と一緒に、少しずつ成長していかないと消えてしまうとよく言われています。ゆる勉という集まりも一緒だと思うのです。

いくら「ゆるい」といっても、それだけでは長く続けていけるとは思えません。

だから、少しずつ外との関わりを持って、刺激を受けながら成長していこうと考えたのです。別にすごい事をやろうという動機ではありませんでした。

三年前、本田直之さんによって流行した「レバレッジ（てこの原理）」という言葉があります。

OSNでもレバレッジという言葉が流行しました。

そして、そこから「パーソナルレバレッジ」と「グループレバレッジ」というものを勝手に派生させました。

自分が本やセミナーで学んだことを活用するのがパーソナルレバレッジだとしたら、各自が学んだことをグループで共有し、掛け算式に増やすのがグループレバレッジだとしました。

各自が咀嚼し、凝縮したノウハウを生々の声で伝えてくれるためインパクトも大きく、その吸収率もアップします。

そしてこの本を書いている「今このとき」にも各メンバーの文中に現れるエッセンスを学べているのです。

気付きの締めくくりとして、もう一つ。

勉強会は参加する方より開催する方が数倍勉強になります。

何かをアウトプットしようとするれば自然と深く理解しようとしています。

また、常にアウトプットする前提で物事を見るクセがついてきます。

さらに当然のことながら、運営や段取りの訓練ができます。

「でもなあ・・・」と思ったときに効く、いい言葉があります。

『実験してみよう！』

謝辞

OSNの初著書「和室から始めるゆる勉のすすめ」をお読みいただき、ありがとうございました。
OSNは本当に幸せ者です。周りの人に恵まれています。

著書でOSNを紹介していただいた方
OSNブログの読者の方
OSNワークショップに参加された方
勉強会やイベントで関わっていただいた方
そして、この本の読者である「あなた」

本当に感謝いたします。

小さいものでもいい。
ゆるいものでもいい。

始めてみると自分の中の何かが、そして自分の周りの何かが動きだします。
しかも、それらは互いに引き寄せ合いながら大きな流れを作っていくでしょう。

では、またどこかの勉強会でお会いしましょう。

Osaka Study Network

和室から始めるゆる勉のすすめ

<http://p.booklog.jp/book/20316>

著者 : Osaka Study Network
(Mharu・炎丸・Dr.OGA・たくMAX・テラ)

著者プロフィール

<http://osakastudynetwork.seesaa.net/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/20316>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/20316>

発行所 : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.